

## 1.活動名

トウモロコシご飯のおにぎり屋さん(トウモロコシご飯):5歳児9月

## 2.子どもの姿と読み取り

- 夏休み中に一人1回、動物当番と野菜の収穫のために園に登園する日があった。その際、園で栽培していた、トウモロコシを収穫する機会を持った。園庭の袋栽培で栽培していたトウモロコシは、どの子どもも毎日生長を楽しみに見ており、収穫を楽しみにしていた。また、クラスで栽培しているポップコーンは、始業式の日には小さな苗であったが、夏休みの間に生長し、子どもたちの身長より大きく育っていた。大きくなったポップコーンと背比べしてみる姿も見られます。
- 夏休み中のトウモロコシの収穫では、教師の「美味しいトウモロコシの見分け方」を聞き、グループで相談しながら、収穫するトウモロコシを選ぶ姿が見られた。
- 1学期の梅ジュース屋さんでは、子どもたち自ら看板やメニューを作成したり、ジュースの値段を決めたり、お金を作ったりと、自分たちなりに必要なものを考え準備をする姿が見られた。また、実際にお店屋さんをする時には、「いらっしゃいませ。水割りがいいですか?炭酸割がいいですか?」とお客さんとのやり取りを楽しむ姿が見られた。ジュース屋さんのメンバーは、みんなで「お疲れ様!!かんぱーい!」と最後の最後に充実した表情でジュースで乾杯をする姿が見られた。
- 1学期間をかけて、お米の栽培をしたり、米ぬかを使って肥料を作ったり、ぬか床を作ったりと、お米を通してできることを考え、実践してきた。また、絵本「ぞろりぞろりとやさいがね」を読み、すぐに食べられないからと捨てるのではなく、それは次の命につながるということを知る機会があった。
- すべての子どもがそういった栽培物に興味があるのではなく、ある一部の子どもが興味をもって見る姿が見られた。ただし、順番で回ってくる花当番の日には、野菜や花などに思いを寄せ、「ここあげてへんな」や「お花かれてるわ」と水やりをする姿が見られる。
- 〇〇〇屋さんのごっこ遊びを通して、何かを得るにはチケット(お金)が必要ということを理解し始めた姿が見られる。

## 3.目指す子どもの姿

- 栽培物に興味をもち、自ら進んで世話をしたり、活動に参加することで、活動を楽しもうとする

## 4.活動の目標(ねらい)

- トウモロコシ収穫後の片付けをすることで、土の再生について考える(知識及び技能の基礎)
- トウモロコシの片付けを通して、ウサギや鶏が食べられる物を知る(知識及び技能の基礎)
- 自分なりの言葉や態度・表情などで、思ったこと感じたことを保育者や友達に伝えようとする  
(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- おにぎり屋さんを通して、ごっこ遊びの中から経済の流れを知る(知識及び技能の基礎)
- 友達と一緒に楽しみながら、トウモロコシの栽培後の片付けをする(学びに向かう力・人間性等)
- 友達とや先生と一緒に楽しんで、トウモロコシご飯のおにぎり屋さんをする(学びに向かう力・人間性等)

## 5.評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
<p>○トウモロコシの葉や茎は土にかえるものかを絵本やパソコンで調べる。</p> <p>○実際に余った葉っぱを持っていき、ウサギが食べるか観察したり、本やパソコンで調べたりする。</p> <p>○○○屋さんを通して、物の値段を考えたり、その価値を考えたりする。</p>	<p>○トウモロコシの片付けを通して、気づいたことや、収穫した時の様子を思い出したり、次に食べるおにぎり屋さんのことを考えたり、楽しみながら感じたことや思ったことを友達や先生に伝えようとする。</p> <p>○収穫した後のトウモロコシの葉や茎などをどうしたら、役に立つのかを考えようとする。</p>	<p>○土の感触や茎を抜く時の力など、楽しみながら片付けをする。</p> <p>○トウモロコシの茎や葉っぱなど、ウサギや鶏に思いを寄せ、持っていく。</p> <p>○おにぎり屋さんを楽しみに、必要なものを友達と相談しながら準備をする。</p> <p>○当たり前にあるのではなく、そこには作ってくれる人がいることを知り、感謝の心をもつ。</p>

## 6.環境構成

### ○活動内容の設定理由

夏に子どもたちと焼きトウモロコシを食べたく、栽培を始めたトウモロコシであったが、収穫が思いのほか時間がかかり、夏休みとなってしまった。また、トウモロコシは園全体として栽培している栽培物の為、みんなで関わることのできる教材ではない。そのため、参加者に限りがある。興味をもってやってみたいと思った子どもや、栽培する過程で熱心に関わっていた子どもなどが中心になってかかわる活動になるが、園庭で子どもたちと楽しんでいる姿から、自分もやってみたいや何ができるのか？何をするのか？と興味をもって関わろうとする姿を期待する。年齢を超えて、興味のある子どもたちが、お互いに力を合わせてトウモロコシの片付けをしたり、おにぎり屋さんの準備をしたりできるようにする。また、栽培・収穫後もその残った素材でできることを考え、最後まで楽しむことを考える。

### ○教材について

トウモロコシ・・・背丈が子どもの身長を超え、大きくなったことを実感しやすい。ウサギや鶏が好んで食する教材でもあり、再利用の視点で考えるきっかけとなる。また、絵画制作などにも活用できるため、遊びにも利用することができる面白さがある。

植え方…袋栽培とし、1袋に2本植え受粉しやすくした。また、いつでもどこでも移動し、掲示できる袋栽培にすることで、親子でその生長を見る機会となる。

### ○展開の工夫

実施する時には、教員間で時間調整をしたり、手が空いている各クラスの担任も参加したりするなどして、子どもたちが興味をもって関わるように時間を設定する。

## 7.ESD との関連

### ○活動を通して養いたい ESD の視点

#### 多様性

- ・トウモロコシの実だけでなく、髭や葉っぱなど他の事に活用することができる
- ・収穫・食するだけでなく、ごっこ遊びにつながる

### ○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

#### 多面的・総合的に考える力

- ・トウモロコシは食べるだけでなく、様々な方法で再活用・再利用できることを知る

#### つながりを尊重する態度

- ・収穫したトウモロコシでトウモロコシご飯のおにぎり屋さんをしたいと思います。

### ○ESD で育てたい価値観

#### 自然環境や生態系の保全の重視 / 幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

- ・自分たちで栽培・収穫したトウモロコシでおにぎり屋さんをすることを期待する
- ・収穫が終わったトウモロコシの葉やヒゲをウサギにあげることで、ウサギに愛着をもつ
- ・収穫が終わった後の土を再利用するために整理することで、次の野菜の栽培に期待をもつ

### ○貢献できる SDGs

- ・15 陸の豊かさを守ろう
- ・12 作る責任 つかう責任
- ・8 働きがいも 経済成長も

## 8.展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちで様々な野菜を育てる (土作り・苗植え・世話・収穫)</li> <li>○栽培物の片付けをする</li> <li>○トウモロコシが枯れていることに気づく</li> <li>○トウモロコシの葉やヒゲなどをウサギにあげる</li> <li>○使い終わった土を片付ける</li> <li>○トウモロコシご飯を作る</li> <li>○おにぎり屋さんの準備・販売をする</li> <li>○みんなでおにぎりを食べる</li> <li>○残った素材でできることを考え遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前に話をした再利用できるものが何かを投げかけたり、疑問に持てるよう声をかけたりする。</li> <li>○子どもの気づきを大切に、その思いを共感し、次の栽培への意欲につながるようにする。</li> <li>○収穫して終わりではなく、次につながる肥料や土になることを伝えながら一緒に作業を楽しむ。</li> <li>○自分たちでやってみたいという気持ちを大切に、おにぎり屋さんで必要なものが何かを一緒に考える。</li> <li>○五感が刺激され、みんなで食べる喜びを感じながら、食べられるように、みんなが目にするのできる場所でお店をする。</li> <li>○残った素材をすぐに捨てるのではなく、その素材を生かしてできることを一緒に考える。</li> </ul>

目指す子ども像

創造する

人とともに

地球とともに

思いをもってトキメキとヒラメキを繰り返す子ども

ありのままを分かり合い、活かし合い、分かち合う子ども

身の回りのものごとにトキメキ、自分事として捉え、自らかかわる子ども

トウモロコシの栽培・収穫・調理

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)

○批判的に考える力

・季節の野菜以外の商品が店頭で並んでいることに気が付き、その保存方法や栽培を考えるきっかけとする  
(思考力の芽生え、言葉による伝え合い)

○多面的・総合的に考える力

・トウモロコシの生長の違いを感じ、天候や世話・環境の違いを考える  
(思考力の芽生え、言葉による伝え合い)

○コミュニケーションを行う力

・一人ではできない作業(土を運ぶ・植える・世話をす  
る・収穫する・調理する)を、友達と共にすることで。友達  
の話を聞いたり、思いや考えに触れたりする  
(言葉による伝え合い、協同性)

○他者と協力する態度

・一人ではできない作業(土を運ぶ・植える・世話を  
する・収穫する・調理する)を友達と協力し一緒に育  
てる。  
(協同性、社会生活との関わり)

○つながりを尊重する態度

・トウモロコシの生長を共有する  
(自然との関わり・生命尊重)

・同じものを食する

(自然との関わり・生命尊重、社会生活との関わり)

○進んで参加する態度

・ごっこ屋さんをとおして、自分もやってみたいと進  
んで参加する。

(自立心、豊かな感性と表現)



梅の収穫：園庭にある植栽(梅・アンズ・いちごなど)に気が付き、そのものを知ったり触れたり・食したりをする。

ねらい(6月下旬～11月中旬)  
○様々な野菜の生長を感じたり気づく  
○遊びや生活を通していろいろな友達とかかわりを楽しむ  
○共通の目的を持ち、やり遂げる楽しさを感じる



いちごジャム作り：園庭にある実りに気が付き、自ら収穫を楽しみ、調理を楽しむ。

友達と自分の思いや考えの違いを感じる力

クラスでの共通の話題や目的を自分事として捉えようとする姿勢

クラスや他学年のいろいろな友達にかかわっていこうとする力

友達や年下の子どもの思いや考えを聞き行動する力

自分でやりたいことを選択する力

自分たちでごっこ遊びを楽しむ(梅ジュース屋さん)

様々な友達の存在に気付き、クラス集団を認識する力



梅ジュース屋さん：友達と協力して、誰かのために作ったり、もてなしたりする楽しさを感じる。お金の流れを感じる。



米ぬか団子作り：五感を刺激されながら、その素材で遊ぶ楽しさを感じる。また、肥料とすることで、SDGsの視点に気付く。



案山子作り：その素材を最大限に生かしてできることを考え役立てる。素材が再利用できることに気づく。

簡単な目的や目標に向かう力

友達と一緒に遊んだり、過ごしたりすることが自分の喜びになる

様々なものやことに興味をもちじっくり見たり考えたりする力

できた喜びを自信や充実感に繋げる力

思いを継続・持続させられる力

少し先のことに見通しをもち、期待を寄せられる力